

基本計画書

基本計画										
事項	記入欄							備考		
計画の区分	大学院の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホウジンセイセンジョガクイン 学校法人清泉女学院									
フリガナ大学の名称	ガッコウホウジンセイセンジョガクインダイガクダイガクイン 清泉女学院大学大学院 (Graduate School of Seisen Jogakuin College)									
大学本部の位置	長野県長野市上野2丁目120-8									
大学の目的	本大学院は、教育基本法及び学校教育法に則り、学術研究を深めると共に、キリスト教の精神に基づく全人教育を教育理念として、学部における一般的・専門的教養の基礎の上に、高度にして専門的な学術の理論とその応用を教授・研究し、また高度の専門性が求められる職業を担うための深い学識と卓越した能力を培い、弛まぬ自己開発を通して文化の向上と社会の福祉のために貢献しうる人人を育成することを目的とする。									
新設学部等の目的	看護学研究科は、本大学院の目的、使命を果たすために、建学の精神である「キリスト教（カトリック）ヒューマニズム」に基づき、看護学分野を研究対象とする中心的な学問分野として、看護学分野に関する深い学識の涵養を図り、幅広い医療関連分野において指導的立場で活躍できる人材の養成を目指して、看護学分野に関する高度な専門的知識や能力及び応用する能力を培うとともに、問題や課題の解決に向けた柔軟な思考力と深い洞察力を養うための体系的かつ組織的な教育活動を行うことを目的とする。									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	看護学研究科 (Graduate School of Nursing) 看護学専攻 (Master's Course of Nursing) 計	2年	8人	—	16人	修士 (看護学) [Master of Nursing]	令和3年4月 第1年次	長野県長野市栗田 1038-7		
同一設置者内における変更状況（定員の移行、名称の変更等）		清泉女学院大学 人間学部心理コミュニケーション学科[定員増]（20）（令和2年度3月認可申請予定） 助産学専攻科[設置]（令和2年度4月届出予定） 清泉女学院短期大学 国際コミュニケーション科[定員減]（△20）（令和2年度6月届出予定）								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数					卒業要件単位数			
	看護学研究科	講義	演習	実験・実習	計	30単位				
教員組織の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設	看護学研究科看護学専攻	8人 (8)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	2人 (2)	
		計	8人 (8)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	—	
	既設	該当なし	—	—	—	—	—	—	—	
		計	—	—	—	—	—	—	—	
合計		8人 (8)	4人 (4)	1人 (1)	0人 (0)	13人 (13)	0人 (0)	—		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		13人 (13)	10人 (10)	23人 (23)					
	技 術 職 員		0人 (0)	1人 (1)	1人 (1)					
	図 書 館 専 門 職 員		1人 (1)	0人 (0)	1人 (1)					
	そ の 他 の 職 員		0人 (0)	0人 (0)	0人 (0)					
計			14人 (14)	11人 (11)	25人 (25)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	清泉女学院短期大学(必要面積4,000.00㎡)と共用 借用地面積1,621.00㎡ 借用期間49年11ヶ月				
	校 舎 敷 地	1,621.00㎡	5,982.12㎡	0㎡	7,603.12㎡					
	運 動 場 用 地	0㎡	4,779.52㎡	0㎡	4,779.52㎡					
	小 計	1,621.00㎡	10,761.64㎡	0㎡	12,382.64㎡					
	そ の 他	0㎡	9,073.09㎡	0㎡	9,073.09㎡					
	合 計	1,621.00㎡	19,834.73㎡	0㎡	21,455.73㎡					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	清泉女学院短期大学(必要面積3,650.00㎡)と共用 借地面積1,148.60㎡ 借用期間49年11ヶ月				
		5,819.01㎡ (5,819.01㎡)	10,059.09㎡ (10,059.09㎡)	0㎡ (0㎡)	15,878.10㎡ (15,878.10㎡)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	24室	10室	26室	5室 (補助職員0人)	1室 (補助職員0人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称 看護学研究科看護学専攻		室 数 13 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	研究科単位での算出不能なため、大学及び併設の短期大学全体での共用分を含む		
	看護学研究科	89,168 [13,077] (86,628 [12,967])	262 [103] (262 [103])	11 [3] (11 [3])	4,496 (4,306)	7,752点 (7,752)	17点 (17)			
	計	89,168 [13,077] (86,628 [12,967])	262 [103] (262 [103])	11 [3] (11 [3])	4,496 (4,306)	7,752点 (7,752)	17点 (17)			
図 書 館		面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数		大学全体			
		977.05㎡	148席		94,300冊					
体 育 館		面積	体育館以外のスポーツ施設の概要							
		1,200.47㎡	-		-					
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 の 概 要	経 費 の 見 積 り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	研究科単位での算出不能なため、学部との合計 大学全体 図書購入費には電子ジャーナル・データベース及び図書館システムの運用・整備費を含む
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	-	-	-	-	
		共同研究費等		1,000千円	1,000千円	-	-	-	-	
		図 書 購 入 費	6,000千円	6,000千円	6,000千円	-	-	-	-	
		設 備 購 入 費	4,000千円	1,000千円	1,000千円	-	-	-	-	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次			
		1,100千円	900千円	-千円	-千円	-千円	-千円			
学生納付金以外の維持方法の概要			寄付金、雑収入 他							

既設大学等の状況	大学の名称	清泉女学院大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
	人間学部 心理コミュニケーション学科	4	48	—	224	学士(人間学)	0.93 1.03	平成15 年度		長野県長野市上野 2丁目120-8
文化学科	4	32	—	96	学士(人間学)	0.98	平成30 年度			
看護学部 看護学科	4	76	—	152	学士(看護学)	0.64 0.64	平成31 年度	長野県長野市栗田 1038-7		
既設大学等の状況	大学の名称	清泉女学院短期大学								
	学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度		所在地
		年	人	年次人	人		倍			
	幼児教育科	2	100	—	200	短期大学士 (幼児教育)	1.10	昭和56 年度		長野県長野市上野 2丁目120-8
国際コミュニケーション科	2	100	—	200	短期大学士 (国際コミュニケーション)	0.84	平成4 年度			
附属施設の概要	該当なし									

教育課程等の概要															
(看護学研究科看護学専攻)															
科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通教育科目	生命倫理特論	1前	2			○			1	1					オムニバス
	健康管理特論	1前	2			○			2						オムニバス
	看護理論特論	1・2前	2			○			1						
	看護倫理学特論	1・2後	2			○			1						
	コンサルテーション論	1・2前		2		○			1						
	フィジカルアセスメント特論	1・2前		2		○			1						
	家族看護学特論	1前		2		○			1						
	看護管理特論	1・2前	2			○			1	1					兼1 オムニバス
	看護教育学特論	1・2後	2			○									兼1
小計(9科目)	—	8	10	0	—			5	2					兼2	
専門教育科目	発達・ヘルス支援看護学	成人期看護学特論	1前		2		○			3					オムニバス
		小児期看護学特論	1前		2		○			1					
		ウィメンズヘルス看護学特論	1前		2		○			2	1				オムニバス
		発達・ヘルス支援看護学演習	1後		4			○		5	2				共同
	小計(4科目)	—	0	10	0	—			5	2					
包括ケア看護学	在宅看護学特論	1前		2		○			1						
	精神看護学特論	1前		2		○			1						
	災害看護学特論	1前		2		○			1	1	1			オムニバス	
	包括ケア看護学演習	1後		4			○		3	1	1			共同	
小計(4科目)	—	0	10	0	—			3	1	1					
研究科目	看護研究方法	1後	4			○			1						
	看護特別研究	2通	8				○		8	3	1				
小計(2科目)	—	12	0	0	—			8	3	1					
合計(19科目)		—	20	30	0	—			8	4	1				
学位又は称号		修士(看護学)		学位又は学科の分野			保健衛生学関係(看護学関係)								
卒業要件及び履修方法							授業期間等								
必修8科目24単位(共通教育科目6科目12単位、研究科目2科目12単位)に加え、専門教育科目2科目6単位(2領域のうち1領域を選択し、当該領域の特論科目1科目2単位及び演習科目1科目4単位)の合計30単位以上を修得し、必要な指導を受けたうえで、修士論文を提出し、修士論文の審査に合格すること。							1学年の学期区分				2期				
							1学期の授業期間				15週				
							1時限の授業時間				90分				

授 業 科 目 の 概 要			
（大学院看護学研究科）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 教育 科目	生命倫理特論	<p>（概要） 生命に関する倫理的な問題や課題についての理解を深めるとともに、生と死に医療がどう関わるべきかについての考察を通して、倫理的な諸問題に対処する考え方の幅を広げる。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（5 杉浦 恵子／6回） 不妊症治療や人工妊娠中絶などの生命操作における具体的な問題や課題を取り上げながら、生殖医療における生命倫理について考察する。</p> <p>（11 稲葉 景／9回）※ガイダンス及びまとめを含む 安楽死や尊厳死のあり方及び出生前診断と選択的中絶の是非論など、生命の終わりとは始まりをめぐる倫理的な諸問題について考察する。</p>	オムニバス方式
	健康管理特論	<p>（概要） 健康づくり対策や健康問題への取り組みなどの考察を通して、看護実践に影響を及ぼし決定を下す際の重要な概念である健康についての知識を深める。 （オムニバス方式／全15回）</p> <p>（6 原 礼子／8回）※ガイダンス及びまとめを含む 健康日本21の策定背景やねらいについて概説したうえで、健康のとらえ方や環境が健康に及ぼす影響と健康の各レベルにおける看護の役割について考察する。</p> <p>（8 山崎 章恵／7回） 健康の定義、健康と病気のとらえ方、健康と幸福との関係、健康の価値について概説したうえで、健康観の変遷とQOLを重視した健康観について考察する。</p>	オムニバス方式
	看護理論特論	看護学の歴史的背景を概観し、看護学の学問体系と看護実践の基盤となる諸理論について理解を深める。また、看護理論とそれに関係する現象を理解するために必要な知識を修得するとともに、臨床現場での応用に結び付ける思考力を高める。さらに、臨床での看護現象のモデルの考察を通して、看護実践の支えとなる理論に基づく看護過程についての理解を深める。	
	看護倫理学特論	看護実践のさまざまな事象において高い倫理観を持って対応することの意識及び倫理的な問題に対処する能力を高めることを目的として、看護師の倫理的感性に影響を及ぼす因子と発達の構造について考察するとともに、看護師が直面する倫理的ジレンマの特徴と倫理的ジレンマの解決のためのアプローチについて考察する。また、医療現場において看護師の倫理的態度を育てる効果的な倫理教育を行うための計画や運用の方法について学修する。	
	コンサルテーション論	コンサルテーションの定義・基礎知識を教授するとともに、看護師が行う臨地の多職種による様々な場面における実際的な複雑問題を解決するための支援の一つとしてのコンサルテーション方法を学ばせ、日常看護実践の中で受講生が経験した具体的問題についてディスカッションすることで、看護師としてのコンサルテーション能力を向上させる。	
	フィジカルアセスメント特論	看護実践に必要なフィジカルアセスメントについての知識を深めることを目的として、患者の心身の侵襲を少なくするためのフィジカルアセスメントの手順やポイントについて解説したうえで、症状や病態から疑われる疾患についての考察を通して、主要な症状別のアセスメントに関する知識を深めるとともに、救急や急変が予測される疾患や病態のアセスメントについて、具体的な事例を取り上げ、エビデンスレベルを提示しながら考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考	
共通教育科目	家族看護学特論	家族看護の諸理論に関する知識の理解を深めることを目的として、家族の定義、機能、形態、歴史及び在宅ケアにおける家族支援の重要性について解説したうえで、在宅ケアにおける家族支援に関する実践事例を取り上げながら、家族支援のプロセスの特徴及び家族支援の方法や技術のあり方について考察する。また、学問としての家族看護学の発展と動向について概説するとともに、家族看護学における研究の特徴や課題と実際について考究する。		
	看護管理特論	(概要) 看護管理の本質と特徴及び看護実践の場面における看護管理の実際や課題についての理解を深めることにより、質の高い看護サービスを提供するための看護管理に関する応用能力を高める。 (オムニバス方式/全15回) (② 宮林 郁子/5回) ※ガイダンス及びまとめを含む 組織を束ね集団をリードするために必要な看護管理者のリーダーシップ能力の発達に影響を及ぼす要因及びリーダーシップとデリゲーション能力との関係について考察する。 (③ 黒田 梨絵/3回) フィッシュ哲学の概念を基盤とした職場環境改善の有用性について概説するとともに、看護職員の健康管理や離職防止にむけたメンタルヘルス支援のあり方について考察する。 (15 本藤 美奈子/7回) 看護業務の多様化や情報化など看護管理の現状と課題について具体的な事例を取り上げ考察するとともに、医療事故の発生予測や回避方法について実務的な側面から考察する。	オムニバス方式	
	看護教育学特論	看護教育学の定義・理念・特徴などの理解を前提として、看護基礎教育、看護卒後教育、看護継続教育の歴史や制度、それに影響を及ぼした要因を学習するとともに、教育機関や医療機関等において看護専門職者として教育機能を発揮できる能力の向上を目指し、成人学習理論、教育評価など各教育に必要な理論・知識・技術を修得する。		
専門教育科目	発達・ヘルス支援看護学	成人期看護学特論	(概要) 成人各期の健康保持や疾病予防についての理解を深めるとともに、成人各期の健康問題や機能障害に応じた質の高い看護を提供するための応用能力を高める。 (オムニバス方式/全15回) (1 石川 りみ子/5回) 外来患者における在宅療養支援の現状と課題及び慢性疾患患者の在宅療法を支援する地域連携のあり方について、在宅酸素療法患者の在宅療法支援モデルの構築から考察する。 (② 宮林 郁子/5回) ※ガイダンス及びまとめを含む 急性期病態や病態急変時にある患者のケアなど救急看護についての知識を深めるとともに、救急看護に必要な適切な看護実践を可能にする臨床知の構造について考察する。 (8 山崎 章恵/5回) 救急や急変が予測される疾患や病態におけるアセスメントの知識を深めるため、消化管及び尿失禁のフィジカルアセスメントについて、エビデンスレベルを示しながら考察する。	オムニバス方式
		小児期看護学特論	昨今の子どもと家族を取り巻く環境の変化に伴う課題や問題の考察を通して、慢性疾患や障がいのある子どものおかれた現状と支援の方法についての理解を深める。具体的には、先天性心疾患をもつ子どものひとり立ちにむけた自己管理能力を向上させるための幼少期からの病気の説明の重要性及び先天性心疾患をもつ子どもがひとり立ちするための母親の関わりについて、先天性心疾患を持つ子どもの出産から成人期に至るまでの事例を取り上げながら考察する。	

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
発達・ヘルス支援看護学	ウィメンズヘルス看護学特論	<p>(概要) ウィメンズヘルス看護の理念の理解及び生涯にわたる女性の健康の向上と女性の生活の質の向上のための知識を深めるとともに、女性の健康を促進し支援する看護の役割について理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 菅沼 ひろ子/7回) ※ガイダンス及びまとめを含む リプロダクションの概念や動向について概説したうえで、女性のライフサイクル各期の身体の変化や特徴とリプロダクションを尊重した看護援助のあり方について考察する。</p> <p>(5 杉浦 恵子/4回) 妊娠中の食生活が胎児に与える影響及び妊娠中の適正な体重増加について解説するとともに、妊婦への適切な体重指導の必要性や食事量と栄養指導の効果について考察する。</p> <p>(9 市川 きみえ/4回) 無介助分娩の歴史的変遷からその特徴について概説するとともに、女性の安全な出産の選択権を保障するための周産期医療体制や周産期医療政策の諸課題について考察する。</p>	オムニバス方式
	発達・ヘルス支援看護学演習	<p>俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決にむけた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、発達・ヘルス支援看護学領域における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための能力を高める。</p>	共同
専門教育科目	在宅看護学特論	<p>在宅療養者とその家族への支援が求められる背景について、社会や家族の変化の側面から概説したうえで、在宅看護を支える医療保険制度と各種制度に基づく訪問看護の提供体制について解説する。また、在宅看護の対象者の特性や多様性及び在宅看護での看護過程の特徴や構成要素について、具体的な展開事例を取り上げながら考察するとともに、在宅看護の対象者としての家族へのケアの考察を通して、在宅看護に関する知識の理解を深める。</p>	
	精神看護学特論	<p>精神疾患をもつ人の回復を支援する看護についての能力を高めることを目的として、精神看護領域におけるコミュニケーションの特徴と精神看護領域で求められるコミュニケーション・スキル、患者と対人関係を築くためのコミュニケーション・スキルについて教授する。また、地域で生活する精神機能に障がいのある人に対する精神症状改善のためのセルフケア支援の実践例を通して、理論・モデルの実践への応用についての理解を深める。</p>	
	災害看護学特論	<p>(概要) 災害看護活動に従事する際に必要となる専門知識を深めるとともに、災害発生時に展開される看護の実際と課題を取り上げながら、災害看護の最新動向についての理解を深める。 (オムニバス方式/全15回)</p> <p>(① 小原 真理子/9回) ※ガイダンス及びまとめを含む 災害と災害看護の定義、災害看護の対象者、災害サイクル、活動現場別の看護活動について解説するとともに、病院防災の仕組みや地域防災の重要性と地域防災活動について考察する。</p> <p>(③ 黒田 梨絵/3回) 災害亜急性期における医療需要や病院支援などについて、東日本大震災で被災した救命救急センターの実践例から分析するとともに、災害実働訓練の必要性と取組みについて考察する。</p> <p>(④ 齋藤 正子/3回) 災害時における避難所の運営及び在宅避難者の実態や訪問看護師の役割について解説するとともに、災害発生時の避難所における要援護者に対するトリアージ手法について考察する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門教育科目	包括ケア看護学	包括ケア看護学演習	俯瞰的な視点からの分析や考察及び主体的な問題発見から問題解決に必要な情報を収集・分析し、問題解決にむけた方法の検討と選択することができる能力を身に付けることを目的とする。具体的には、包括ケア看護学領域における重要な特定の主題や直面する諸課題に関するテーマを取り上げて考察することにより、問題の発見方法や対策の設定方法の理解を深め、情報や知識を複眼的かつ論理的に分析し表現するための能力を高める。	共同
研究科目		看護研究方法	より良い看護を探究するための課題解決に必要な研究活動に関する能力を高め、看護研究における倫理的配慮や研究者倫理についての理解を深める。具体的には、看護実践を質的又は量的側面から扱う研究活動に必要な文献研究・事例研究・実験研究から、面接法、参加観察法、質問紙法、データ分析法などの研究デザインや研究手法について学修するとともに、対象者の人権擁護や研究不正の回避など、看護研究における倫理について学修する。	
		看護特別研究	<p>(概要) 研究指導教員による入学から修了までの継続的な研究指導体制をとるものであり、学生一人ひとりの研究計画に対応する個別指導を中心として、修士の学位に相応しいレベルの論文作成を行うことができるよう研究指導を行う。具体的には、自己の研究課題の設定にはじまり、研究計画の立案・調査・分析から論文の作成、研究成果の発表へと結び付けていくことにより、基礎的な研究能力を修得する。</p> <p>(1 石川 りみ子) 呼吸困難を有する慢性呼吸器疾患患者の在宅で療養を継続する要因と在宅医療患者のQOLに与える影響について研究指導を行う。</p> <p>(① 小原 真理子) 国内外で発生する災害の現状と看護活動及び災害時における被災者の健康と生活に対応する支援活動について研究指導を行う。</p> <p>(3 日下 和代) 地域で生活しながら療養する精神機能に障がいのある人に対する精神症状改善のためのセルフケア支援について研究指導を行う。</p> <p>(4 菅沼 ひろ子) 女性のライフサイクル各期の身体的な変化や特徴とリプロダクションを尊重した妊産婦・褥婦への支援のあり方について研究指導を行う。</p> <p>(5 杉浦 恵子) 妊娠中の食生活が胎児に与える影響と体重増加の要因及び妊婦への体重指導の必要性や食事量と栄養指導の効果について研究指導を行う。</p> <p>(6 原 礼子) 在宅看護の対象者の特性と在宅看護での看護過程の特徴や構成要素及び在宅看護を支える訪問看護の提供体制について研究指導を行う。</p> <p>(② 宮林 郁子) 救急看護に必要な適切な看護実践を可能にする臨床知の構造と救急対応時の看護師のデリケーションの様相について研究指導を行う。</p> <p>(8 山崎 章恵) 周手術期における入院前患者教育や合併症予防の看護と退院後のセルフケアを支援するための看護や患者教育について研究指導を行う。</p> <p>(9 市川 きみえ) 日本の出産環境の特徴及び女性の安全な出産の選択権を保障するための周産期医療体制や周産期医療政策の諸課題について研究指導を行う。</p> <p>(1 北村 千章) 先天性心疾患や欠失症候群のある子どもの支援及び地域で生活する子どもと家族への看護支援のあり方について研究指導を行う。</p> <p>(③ 黒田 梨絵) 看護職員のストレス対策や離職防止などの職場環境の改善に向けたフィッシュ対策への取り組みの有用性について研究指導を行う。</p> <p>(④ 齋藤 正子) 災害により長期の避難を余儀なくされる療養者への看護支援者モデルの構築と地域防災支援プログラムの開発について研究指導を行う。</p>	

学校法人清泉女学院 設置認可等に関わる組織の移行表

令和元年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	令和3年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
清泉女学院大学				清泉女学院大学				
人間学部				人間学部				
心理コミュニケーション学科	48	-	192	心理コミュニケーション学科	<u>68</u>	-	<u>272</u>	定員変更(20)
文化学科	32	-	128	文化学科	32	-	128	
看護学部				看護学部				
看護学科	76	-	304	看護学科	76	-	304	
				<u>助産学専攻科</u>	<u>6</u>	-	<u>6</u>	専攻科の設置(届出)
計	156	-	624	計	182	-	710	
				清泉女学院大学大学院				
				大学院の設置(認可申請)				
				看護学研究科				
				看護学専攻	8	-	16	
				計	8	-	16	
清泉女学院短期大学				清泉女学院短期大学				
幼児教育科	100	-	200	幼児教育科	100	-	200	
国際コミュニケーション科	100	-	200	国際コミュニケーション科	<u>80</u>	-	<u>160</u>	定員変更(△20)
計	200	-	400	計	180	-	360	